

桜の名所として知られる宮城県気仙沼市・大川沿いの桜。東日本大震災で3分の1が流されましたが、4月28日に開催された観桜イベント「気仙沼大川桜並木 未来への集い」には約200人が集まりました。桜並木は、堤防建設により本年度中にも伐採される予定。地域の桜保存会は、樹勢のあるヤエザクラとソメイヨシノの計7本を年内に仮移植して保存に取り組む予定です。(2013年4月撮影)



再生可能エネルギーと被災地の復興

2011年3月11日の東日本大震災発生から2年と2カ月が経過しました。被災地の復興は、単に震災前の状態に戻す「復旧」ではなく、震災以前から被災地が抱えていた少子高齢化や産業衰退などの課題に向き合うものでなければなりません。また、東京電力福島第一原発事故は、戦後一貫して原子力依存度を高めてきた日本のエネルギー政策を見直すきっかけとなりました。

こうしたなか、太陽光、風力、水力といった地域の自然の力を利用して生み出される再生可能エネルギーは、エネルギー自給率の向上、地球温暖化対策、さらには将来の産業育成につながる」と期待されています。

自然豊かな東北は、再生可能エネルギーの潜在能力が極めて高いと言われます。例えば、風車の設置数は青森が全国1位、秋田が5位と、すでに風力発電の先進地域となっているほか、秋田ではコメどころ東北のポテンシャルを最大限に引き出せるとして、農業用水路などを利用した小水力発電システムの開発が始まっています。また、土地面積の70%以上、470万ヘクタールを森林が占める東北地方では、年間約53万トン発生するという「林地残

材」を通じた「木質バイオマス発電」への期待が高く、雇用創出も見込める林業を復興の基幹産業に据えるべきとの政策提言を発表するシンクタンクもあります。

2012年7月からスタートした「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」は、再生可能エネルギーによる電気の買い取りを電力会社に義務づけるなど、社会全体で再生可能エネルギーを普及・拡大させるための制度です。また、2011年12月に施工された「復興特区法」は、被災した自治体が地域の状況や特性を踏まえて自ら作成したメニューに基づいて復興を加速させるための制度で、この活用により、エネルギーの安定的確保にも知恵を絞ってこうしたの機運が高まっています。

こうした震災後につくられた新制度や復興支援の動きに後押しされ、民間による再生可能エネルギー関連の新しい挑戦が始まっています。今月のマンスリーレポートでは、2012年夏から開始した「中長期復興支援事業」のうち、宮城県で実施中の「緑の環」プロジェクト、持続可能な林業と木質バイオマス活用を通じた地域活性化」について紹介します。

Monthly Topic

Civic Force の複数の事業の中から、注目のトピックをお知らせします。

自然エネルギーの 地産地消を目指す

宮城県気仙沼市街から北へ車で約20分、曲がりくねった山道の途中に、大小の丸太がたくさん積み重ねられた木材集積場があります。入口付近に立てられたのぼりには「間伐材買取り実施中」の文字。木材を積んだトラックが次々に行き交います。旧温泉地だった土地を利用して、2012年12月から毎月数回、市民を対象にバイオマス燃料用の間伐材を買い取り、2013年4月末には、これまでに最も多い89トンが、この集積所に搬入されました。



「入プロジェクト」の一環として、気仙沼地域エネルギー開発株式会社（P3参照）が実施する「間伐材買取り」の一場面。このプロジェクトは、持ち山などから木を切り出して収入を得る個人の林業者を育成するとともに、建材にならない間伐材などを加工したバイオマス燃料を普及させることで、エネルギーを持続的に確保するとともに、新たな雇用・就業の場を生み、持続可能な社会を目指す取り組みです。

シビックフォースは地域のこうした挑戦を、中長期復興支援事業「緑の『環』プロジェクト」で持続可能な林業と木質バイオマス活用を通じた地域活性化の枠組みで応援しています。山林の所有者や副業として林業を始めようとする住民向けの講習会の開催、「木材集積場」の運営などが主なサポートの一つです。

切り出した木を集めるこの集積場では、間伐材は1トンあたり3000円＋地域通貨「リネリア」3000円分で買い取られます。リネリアは、山から出る利益を地域内で循環させるために生み出されたもので、市内の復興商店街など約180店舗で使えます。また、集められた木材は、薪やチップなど木質バイオマス燃料に加工され「地産地消」のエネルギーとして活用予定。現在、高台への集団移転に向けた話し合いが進む気仙沼市内において、建設予定の災害公営住宅の公共スペースへ薪ボイラーなどの設置を検討しており、消費電力量や自然エネルギーのニーズに関する調査を実施中です。



地域通貨「リネリア」

東北共益投資基金 9案件に投資

「被災地の経済復興を実現するため、地元企業の復興が急務」との観点から、シビックフォースは、2011年11月に「一般財団法人東北共益投資基金」を立ち上げました。

あれから1年半。同基金はこれまで、宮城県石巻市の雄勝硯生産販売共同組合や佐藤造船所、及川電機、同県気仙沼市のピースネイチャラーボ、亘理郡のトラスト、牡鹿郡の女川町宿泊村共同組合、

次の災害に備えて 愛知県と協力協定締結

次の災害に備えて自治体や企業との連携を進めるシビックフォースは、4月17日、愛知県と災害時相互協力協定を締結しました。協定では、災害時に迅速で効果的な被災者支援の実現を目指して、①災害時の情報収集及び伝達、②災害時における物資の調達、供給及び緊急輸送、③市町村から要請があった場合の避難所等での被災者支援、④県が主催する防災訓練への参加、⑤定期的な意見交換などの面で協力していきます。

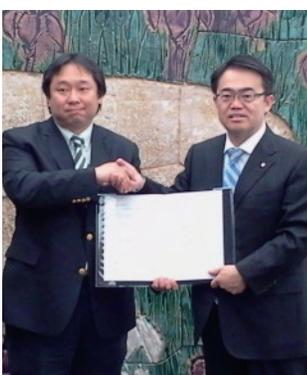
大村秀章知事（写真右）からは「本県で災害が発生した

女川ファクトリー、岩手県釜石市のヒカリフーズ、三陸いりや水産の9案件＋2プログラムに投資・アドバイスを行ってきました。

2013年3月から事務局長に就任した吉田哲也さんは、「これまで10年以上、東北を含む地方中小企業再生の現場に身を置いてきた経験を生かし、地域の力による事業の再興、新しい事業の成長のために貢献したい。この支援の形が被災地から地域活性化モデルとして波及していけば」と話しています。

時、シビックフォースには東日本大震災の支援活動で培われたノウハウや民間ならではのネットワークを活用いただけるのではないかと心強く思っている」と期待の声が寄せられました。

自治体との協定締結は、静岡県袋井市、宮城県気仙沼市、三重県につき4例目となります。



地域再生への新しい**挑戦**

宮城県で石油製品の販売や高圧ガスの製造販売などの事業を行う気仙沼商会の代表として、長年、気仙沼を中心に地域のエネルギー供給事業に携わってきました。震災では、津波で所有していたタンクが流されるなど大変でしたが、水産業の復活に向けて燃料の安定供給に取り組みました。石油会社の立場から、また祖父の代で終わってしまった「林業」の課題ともう一度向き合うため、震災後「気仙沼地域エネルギー開発(株)」を立ち上げました。



気仙沼地域エネルギー開発(株)
代表取締役 高橋正樹さん

Face Face

Civic Force の活動は、多くの企業や NPO、行政などに支えられています。パートナーからの旬なメッセージをお届けするコーナーです。

再生可能エネルギー利用の重要性が高まるなか、これを真に自立的な地域づくりにつながるためには、住民参画のもと、地域資源を最大限に活用し、経済効果が域内で循環するように進めていくことが必要です。林業と密接にかかわり継続的な燃料供給につながる「木質バイオマス」の普及事業は、復興の柱にとどまらない、地域再生への新しい挑戦だと自負しています。

2011年度第3次補正予算事業の枠組みで、気仙沼市から「緑の分権改革」被災地復興モデル実証調査の委託も受け、まずは、木質バイオマスエネルギーの利用・普及拡大を目指し、木材の供給体制の強化に取り組んでいます。

山で木を切る人、加工する人、消費する人など、地域内の多くの人が森とかかわることで豊かになれる好循環の仕組みを作り上げるには、まだ課題が山積みです。そうした中、シビックフォースはこの事業の意義を理解し、地域内外のネットワークを生かしつつ、政府や他団体では手が出しにくい初期投資の部分で支援を決めてくれました。新しいことに挑戦する恐さもありますが、それ以上にこの上ない使命感を持って取り組んでいます。

2013年5月11日現在実施中の東北支援事業の一部をご報告します。

中長期復興支援事業

Civic Force では、緊急時から約1年半にわたる支援活動の中で見えてきた被災地の課題解決に向けて、さらに腰を据えて取り組むため、2012年夏から「中長期復興支援事業」を続けています。各事業の進捗状況をご報告します。
<http://www.civic-force.org/emergency/higashinohon/choki/>

■観光再生プロジェクト

～“訪れたいまち”に向けた官民協働の仕組みづくり
宮城県気仙沼市が復興重点事項に掲げる“観光”戦略立案をサポート。観光戦略会議への参加や観光資源活用に関する調査のほか、今年4月には地元金融機関や行政、企業が参画する「リアス観光復興プラットフォーム」立ち上げ予定。

■命をつなぐ翼プロジェクト

～ヘリを活用した緊急医療搬送支援
震災以前から医療過疎が進む沿岸被災地で、救急医療搬送用ヘリを導入し、高度医療機関へのアクセス改善を目指す事業。5月21日の運行開始に向けて、現在、各種関係者との調整や調査を実施中。

■緑の“環”プロジェクト ～持続可能な林業と木質バイオマス活用を通じて地域を活性化
詳細は P2 をご覧ください。

■共“還”まちづくりプロジェクト

～地域発・住まいと仕事の創造的復興チャレンジ支援
被災地で生まれた NPO や被災地行政と協力し、すでに集団移転を決めた地域で始まっている新しいまちづくりのサポートや、これからまちづくりを進めていく地域で、専門家派遣や人材育成などのプログラムを支援。

■夢を応援プロジェクト

～奨学金 × 地域発の教育プログラムで若者サポート
東日本大震災の影響で就学継続が困難な状況にある被災地の高校生が社会人になるまでの最長7年間、月3万円の奨学金を給付するとともに、被災地内外での教育プログラムなどを実施。

NPO パートナー協働事業

被災した人々が地域の復興に向けて主体的に取り組む事業をサポートしています。2013年5月現在、以下の団体と4件の事業を実施中です。<http://www.civic-force.org/emergency/higashinohon/npo/>

■岩手県臨床心理士会：

被災県における数少ない“職能集団”として、多種多様な心のケア事業を展開中。

■オールラウンドヘリコプター：

過疎化や医師不足が深刻な被災地で行政・医療機関などと連携して地域医療格差を改善。

■しんりん：

木質ペレット燃料や国産材などの森林資源活用を通じて持続可能な地域社会を推進。

■生活クラブやまがた：

山形県米沢市で福島避難者を受け入れ、経済的・精神的サポートを実施中。

東北支援
NOW

支援の輪を広げる チャリティボックス

シビックフォースの活動は、多くの企業・個人の皆様に支えられています。



お店のレジ横や会社の受付、イベント会場などにチャリティボックスを設置し、支援の輪を広げませんか。お問い合わせは pr@civic-force.org まで。

1日1回1クリック

「クリック募金」は、「クリック一ツ」で募金できる仕組みです。皆様の「協力をお願いいたします」。

<http://www.clickbokin.ekokoro.jp/139.html>
<http://www.psc-inc.co.jp/clickdonation/index.html>

日経ソーシャルイニシアチブ大賞ファイナリストに

様々な社会的課題をビジネスの手法で解決する「ソーシャルビジネス」の分野で優れた取り組みを表彰する「日経ソーシャルイニシアチブ大賞」のファイナリスト35団体が発表され、シビックフォースが「東北復興支援部門」のファイナリストの一団体として選出されました。

「次への備え」は企業の皆様とともに

シビックフォースでは現在、次の大規模災害発生に備え、平時からより多様な企業や団体との連携関係の構築に努めています。その活動の多くは法人賛助会員の皆様に支えられています。多くの企業様の参加をお待ちしています。

<http://www.civic-force.org/about/membership/>

1日33円からできること

次の大規模災害に向け、平時から備えておくために、皆様の力が重要です。マンスリーサポーターとして、毎月定額（1000円単位）を「寄付いただく形で、大規模災害にもと備えてください。

■ 銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964

■ ゆうちょ：00140-6-361805

（上記いずれも口座名義は「ロイヤリティ・ボクシング シビックフォース」です）

■ クレジットカード：ホームページ「オンライン募金」をクリックしてください。

https://bokinhana2.com/civicforce/donation/bokin/page1.php?bookin_type=donation

メールマガジン「被災地の今を知る」

シビックフォースが国内外で展開中の事業についてお知らせするメールマガジン「被災地の今を知る」を、週1回、発行していきます。「登録はこちらから」。

<http://www.civic-force.org/mailmag/>

CHECK!!

 <https://twitter.com/civicforce>

 <http://www.youtube.com/civicforceorg>

 <https://www.facebook.com/civicforce>

 <http://www.civic-force.org/mailmag/>

被災地からのメッセージ

震災から2年。このコーナーでは、被災した東北で暮らす方々の声を届けます。今回は、宮城県気仙沼市内で電機店を営む井上電気商会の井上剛彦さんにお話を伺いました。



気仙沼市
井上電気商会 井上さん

—— 震災が発生した時には気仙沼駅の裏側で仕事をしていました。お店の中はテレビなど不安定なものは倒れ、2階は食器棚が全部ひっくり返り、台所はガラスの破片が散乱して1週間くらいは中に入れなかった状態でした。

そして現在、道が舗装され、がれきが撤去されていく様子を見ると、復興しているんだという実感を得ることができます。ただ、子どもたちの教育環境に目を向けると、まだ仮設住宅が校庭に設置されている学校もあり、復旧はまだまだという側面もあります。子どもたちの声を聞くと、部活の練習場所に困っていたり、スペースの問題でお昼なしの運動会が開催されたりしてさみしいと言います。私も一人の父親として、子どもたちにはなるべく不自由をかけたくないという思いがあります。

今回全国の皆さまにたくさんのご支援をいただき、とても感謝しています。今後、感謝の気持ちを込めて気仙沼市として何かの形で恩返しをしたいです。感謝するという気持ちを忘れなければ、これからも皆さんとつながっていけるはずですよ。